



つがる市長

倉 光 弘 昭

## ごあいさつ

津軽まほろば会が設立15周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことは誠に意義深く、心よりお祝いを申し上げます。

貴会におかれましては、平成19年に設立されて以来、つがる市をこよなく愛する首都圏在住の本市出身等の皆様が強い絆のもとに交流を深められ、イベントへの参加や本市農産物のPRなど、市発展のためにご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

また、長谷川亨会長をはじめとする歴代会長、会員各位の故郷つがる市への変わらぬご厚情に敬意を表します。

さて、本市の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録となり、関係自治体と地域住民の方々の長きにわたる取り組みが実を結んだところでございます。今後は、世界の宝となった両遺跡を後世に引き継いでいけるよう保存・活用に努めるとともに、縄文遺跡を活用した地域の活性化と魅力づくりに取り組んで参ります。

また、全国的な人口減少は少子化等を背景に今後も進行していくものと思われ、本市においても人口減少は顕著であります。その対策として、つがる市東京事務所職員が企業誘致や移住定住の取り組み、本市特産品のPRなど多岐にわたって、首都圏と本市を繋ぐ活動を展開し、関係人口の創出に向けて引き続き取り組んで参る所存です。

東京事務所に併設するメロン専門工房「果房メロンとロマン」もメディア等で数々取り上げられ、本市の知名度向上に貢献しているところですが、貴会の皆様におかれましても、是非訪問され、郷土に思いを馳せていただけると幸いです。

市といたしましては、今後とも皆様が故郷に誇りを持っていただけるよう、「つがる市に生まれ、育ち、生業に励み、その人生がよかったと思えるまちづくり」の実現に向け全力で取り組んで参りますので、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、津軽まほろば会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



## 前つがる市長 福島 弘 芳

津軽まほろば会の設立15周年を心からお祝い申し上げます。そして、ここに記念誌を発行されますこと誠にありがとうございます。

平成19年の設立以来、ふるさとつがる市を応援する中心団体として数々の活動を続けられ、首都圏での本市PRにご貢献いただいております。これもひとえに長谷川会長はじめとする歴代会長、諸先輩方のご尽力の賜物と心から敬意を表します。

私と貴会とのつながりを振り返りますと、町村合併以前の平成10年に、当時木造町議会議長として、木造まほろば会の創立に携わったのが始まりです。それから合併までの間、木造まほろば会定例会等へ参加するなど会員との親睦を深めたものであります。

平成17年3月につがる市長に就任してからは、合併により故郷を同じくする事となった関東地区に居住する方々がネットワークを形成し、市勢発展に繋がる情報や提言などの支援を行うつがる市出身者の会を構築したいと、旧町村における既存の「木造まほろば会」と「車力ふるさと倶楽部」の役員の皆様のご尽力により現在の「津軽まほろば会」が設立となりました。設立にあられた皆様方のご努力とご労苦には感謝の念に堪えられないものであります。

以降、令和3年3月のつがる市長の任期を終えるまで、毎年会員の皆様方と交流を図り、故郷に対する思いや市勢に対する思いを数多くいただき市政運営に生かすことができました。

退任してからは、一市民としてつがる市を見守り、また、微力ではございますが、つがる市のために尽力していきたいと考えている所存であります。

どうか皆様におかれましても、今後とも故郷と首都圏をつなぐ架け橋役として、つがる市の発展に一層寄与されますことをご期待申し上げます。

結びに、津軽まほろば会の更なるご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 東京青森県人会会長 佐藤 英 明

### 祝 創立15周年 さらに発展を願う

創立15周年おめでとうございます。創立以来、様々な努力を重ねて今日にいたったこと、会員ならびに関係者の皆様のご努力に敬意を表します。

ふるさとつがる市の首都圏における物産販売支援、アンテナショップ「果房メロンとロマン」との交流・支援、「神楽坂歴史まちあるき」など、津軽まほろば会の活動の特徴はつがる市と会員の皆様が一体になって活発な活動を展開されていることにあります。

およそ、ほとんどのふるさと会は「会員の親睦」と「ふるさとへの貢献」を活動目標にしております。津軽まほろば会は、まさにこの二つの目標を着実に具現化して時を積み重ねてきたと言ってよいでしょう。

会の名称にある「まほろば」はご存じのとおり「素晴らしい場所」「住みやすいところ」という意味の古語であります。このネーミングからして会員の皆様ふるさとに対する熱い思いが伝わります。

この2年ほどは、残念ながら新型コロナの影響でなかなか「集う」催しはできませんでした。

創立15周年という節目に、会員の皆様が一体となって、こうした困難を乗り越え、津軽まほろば会がさらなる発展を遂げられるよう心から願っております。



社会福祉法人つがる市社会福祉協議会会長  
白戸英行

津軽まほろば会へ感謝を込めて

津軽まほろば会発足15周年を迎えられますことを、心からお喜び申し上げます。

つがる市社会福祉協議会は平成17年3月1日より発足しておりますが、津軽まほろば会発足以前より、総会へお招きいただき、会員みなさまのふるさとへの思いを、善意の寄付金としていただき各種地域福祉事業へつなげることができており、心より感謝申し上げます。

つがる市社会福祉協議会では、つがる市内の一人暮らし、老夫婦世帯を中心に、地域で見守る仕組みづくりや、高齢者が身近なところに集まり、仲間づくりやフレイル対策のためのサロンづくりをしております。

また、地域住民や子どもたちの福祉の心を育む事業など実施し、本会の基本理念であります「住民ひとり一人を大切にされた地域福祉の推進」のため、みなさまの貴重な浄財を活用させていただいております。

これらの地域福祉事業の他、困りごと相談事業、介護事業を実施し、つがる市に暮らしている会員みなさまの関係する方々が、安心して暮らせるよう、つがる市で現在取り組んでいる地域包括ケアシステムの構築に向け、つがる市はじめ関係機関と協力しながら、事業充実を目指し、これからも役職員一同一丸となり、地域福祉の推進を進めて参りますので、今後ともご協力くださるようお願い申し上げます。

終わりに、会員のみなさまには健康に十分留意し、これからもご活躍されますことと、津軽まほろば会の益々のご活躍をご祈念申し上げ、感謝のことばとさせていただきます。